西日本新聞 (明治25年3月26日第3種郵便物認可) 第46497号 (日刊)

西日本新聞

3月25日
(月曜日)

発行所
西日本新聞社
福岡市中央区天神1丁目
4番1号(〒810-8721)
©西日本新聞社 2013年
電話092(711)5555(代)
http://nishinippon.co.jp/
お客さまセンター
092(711)5331
平日10~18時
土曜10~14時(日・祝日休み)
購読・配達の案内(7~20時)
0120-44-0120

北九州
北九州本社 093(482)2601

春秋

2013.3.25

北九州市出身の豆紙人形作家、マサコ・ムトーさん（本名・武藤正子さん）の話は何度か小覧で紹介した。7年前に93歳で亡くなったが、生誕100年となる今年、初めてふるさとで作品展が開かれることになった▼マサコさんは87歳になってから、手のひらに乗る小さな紙人形を作り始めた。緑内障で右目を失明し、左目の視力も衰えていた。だが、光を失ったからこそ、見えるものがあった▼着物姿で遊ぶ子どもたち、楽しかったお祭りの風景…。心の宝箱から取り出した幸せな思い出をそのまま形にしたような作品たちは、見る者をいつの間にか笑顔にしてくれる▼「何歳でも、見えなくても、手さえ動けば何でもできる」と、病苦に負けず創作を続けたマサコさんの生き方も、多くの共感を呼んだ▼里帰り展は不思議な縁で実現した。マサコさんの100回目の誕生日の2月10日は、旧5市合併で北九州市が誕生してちょうど50年の節目の日でもあった。市制50周年の記念行事を考えていた到津の森公園（北九州市小倉北区）の松岡裕史園長代理が、10年ほど前に偶然知ったマサコさんのことを忘れられなかったのがきっかけだった▼「こんなすてきなおばあちゃんがいたことを市民に知ってもらいたい」と松岡さん。「マサコ・ムトー人間展」は4月6日～6月16日、同園で。ふるさとの人たちに作品を見てほしいと願っていたマサコさんの夢も、もうすぐかなう。